

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470301017		
法人名	鈴鹿インター株式会社		
事業所名	さつきの里 グループホーム		
所在地	三重県鈴鹿市伊船町字北上の割2020-3		
自己評価作成日	令和3年10月29日	評価結果市町提出日	令和3年12月29日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaizokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JizyosvoCd=2470301017-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 3 年 11 月 5 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様・家族様が安心していただけるような支援をする。利用者様・職員が共に笑顔で安全に不安なく生活できるよう支援する。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三重県の中北部に位置し開設より18年を迎える鈴鹿市の事業所で、総合物流事業を展開する会社を母体とし、通所介護・居宅事業所と同じ敷地内に併設された2階建て2ユニットのグループホームである。豊かな平野が広がり、心落ち着く雰囲気のある静かな住環境である。リビング兼食堂が40畳の広さで、利用者同士の距離にもゆとりがあり、職員が接し易く安心な生活環境である。職員は利用者には何か異変を感じるとそっと寄り添って聴き取り、良好な共同生活を保つ事に繋げている。コロナ禍で外部との交流や外出が出来ない中、敷地内の日本庭園や東屋で過ごす時間は、外に出て気分転換が出来る認知症の方にとっては何よりも良い環境作りで、顔つきや表情も豊かに保たれている。「一人一人の思いを大切に、健やかな生活を願い、そっと寄り添う支援」を理念に掲げ、利用者を尊重し温かい介護サービスを実践している事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はスタッフが見えるところに掲示し、常に意識するよう心掛けている	開設以来の事業所理念を4年前に、全職員が現状に合った理念に見直した。利用者がその人らしく暮らし続けるために、「そっと寄り添う支援」を常に意識付け、生活の維持向上を目指した支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地元小学校・中学校のイベント交流がないが、外食・近所の公園に花見・ドライブに出かけ、出かけた先でお会いした地域の方と楽しく談笑をされる	コロナ禍以前は年に1回家族交流会や、地域住民を含め200名を招いたお祭りを実施出来ていたが、今年は2ユニットで室内のお祭り実施となった。地域の住宅から離れて立地しているが、行事やイベントなどの事業所からの発信を行い、接点を持つ努力を続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年ではできていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年では施設内では推進会議はしていないが、報告は書類で郵送している	事業所の年間行事や利用者の活動状況等を、行政や会議参加メンバーに報告書を送付している。コロナ禍で、会議再開については行政の助言などを聞きながら、今後の対応を検討している。	昨年に続き「事業所活動状況報告書」を行政と会議構成メンバーへ1年分を郵送しているが、報告書は定例2カ月毎(年に6回)として、感想や意見も聴き取り、会議再開時に向けて取り組まれる事を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	コロナ感染対策・ワクチン・感染した際の速やかな対応等相談している	日頃の連絡等に加え、コロナ禍での感染対策、ワクチン、感染時対応等の取り組みに助言を受けている。本年度は事業所更新の年でもあり、行政との連携により指定の更新を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回職員会議の中で、利用者様に対しての声掛け介助は正しいか？等、議案にかけたりして職員が考え意見を出し合い、今後のケアについて話し合い、拘束のない介護を意識している	毎月の会議の中で「身体拘束廃止委員会」を実施している。毎月交替で職員のレポートが提出され、疑問や悩む事への文面作成に取り組み、身体拘束の弊害への理解と共有に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	GH・DS合同での虐待・身体拘束についての研修、2カ月に1回職員会議での時間に研修を行っている。施設長・管理者・ケアマネが連携して日々管理し防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に、必ずお聞きして、さつきの里でのサービス・ケアの説明をし、理解・納得していただく様努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、他の病院受診の際には、家族様都合の予約時間に合わせ、介助の為職員勤務時間の変更を行ったりもしている。看取り利用者様家族面会制限中でも面会出来るようにしている	コロナ禍面会制限の中、看取り利用者と家族が最期の大切な時間が持てる様に、管理者は上司へ面会許可を願い出て実現した。又、遺品整理希望の家族は、利用者の自宅への外出が叶う様に、最善の対応準備中である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回会議の際に、意見交換ができ、利用者様の身体能力・症状に合わせ、車椅子・シルバーカーなどの購入を即座にしたり、施設内修繕など要望に即座に対応してくれている。面会制限の緩和・看取り家族の面会の許可等	利用者の生活に必要な物品や修繕への要望に、法人からの柔軟な対応がある。上司に報告してからの実現化が早く、職員の要望や意見の吸い上げの流れも良く、職員のやる気に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回賞与前に役割リスク表で把握し、人事評価表で評価し賞与に反映している、施設長の個人面談もあり、要望・希望等言える環境がある		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日頃の勤務状態は、施設長・管理者・ケアマネ・フロア長がしっかり把握し、その場での指導も行い、DS合同で講師を招いて必要な研修もしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年は、十分な交流はしておらず、向上につながる取り組みはしていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時から、ご本人の様子を確認しながら行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入時から、入所2～3カ月は特に話し合う時間を多く設け、家族様の要望を伺い、ご家族希望の専門病院通院の支援の希望の為、受診の日には、職員勤務の形態に配慮している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の症状を見極め、施設での支援が出来ること出来ない事を理解していただき、今後の支援方法なども説明し最適なサービスが出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に出来るお手伝い、食器拭き・ゴミ出し・掃除・洗濯など利用者様と協力しながら生活している。毎日のレクリエーションでは職員も利用者様も一緒に楽しむ事を忘れずしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には本人様の健康状態・最近の様子等を面会時、電話で報告し、家族様の意見を取り入れたサービス心掛けている。葉の変更などはすぐに連絡している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の知人の方からの手紙の返事をご本人に書いていただく様、支援したり、書けない時には、管理者が家族の了解を得て、返事を書いている	利用者の馴染みの俳句仲間からの手紙には、管理者や職員と一緒に返事を書く支援をしている。定期的な訪問診療の先生は、利用者にとって昔馴染みの先生であり、訪問時には喜びの対面となっている。回想法にも注目し、鈴鹿市の写真を見ながら昔を懐かしみ、思い出して貰えるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格等を把握し、席などを工夫しトラブルになりそうな時は職員が間に入り速やかに回避し利用者様同士尊重できる関係が築けるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は、1カ月ぐらい経ったときに、家族様に管理者からお礼のお手紙を送り、相談しやすい体制を心掛けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の中で希望の把握に努め、ご自身のペースで過ごしていただけるよう心掛け、居室で過ごしたい方は居室で過ごしている玄関椅子や庭に自由に行かれている	居室で自由時間を過ごしたり、一人ベランダで景色を眺めたり、利用者がどの様に暮らし、何がしたいかを職員は個々にそっと寄り添って把握に努め、ストレスの無い表情や行動が見られるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にはケアマネ・かかりつけ医情報で把握している。1人ひとりのアセスメントでも把握し新たな情報も介護日誌・申し送りなどで共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日朝のバイタルチェック・夜勤者からの申し送りから、体調把握が始まり、様子観察し共有をしている。気持ちの沈みがある方はその方が自由に過ごせるよう配慮している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員には月1回、職員会議・サービス担当者会議・カンファレンス・モニタリングで意見の出し合いをして、家族様には計画作成前には必ず連絡してお聞きして計画作成している	利用者の視点に立ち、家族の意見・気付きや要望や変化を、モニタリングの意見交換で丁寧に記録されている。利用者主体の計画書作成が出来るよう、話し合いの場を重要に捉えてカンファレンスを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌・申し送りノート・口頭の申し送りで情報把握し、気づきや工夫も記入管理しながら、実践や計画見直しに役立てている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様同行通院に対しての選択の提案、全介助の利用者様の車乗の介助のため、職員勤務の調整等させていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍で外出やイベント参加が難しいが、落ち着いたところ近所の公園・花見・外出に出かけ地域の方とはお話を楽しまれた		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診・24時間緊急対応していただいている。専門病院に受診されている利用者様が見え、付き添いの家族様・病院と連携している。	現在、全員が月2回の協力医による定期訪問診療を受けている。24時間の利用者へのサポートの仕方、夜間のケア等を協力医や看護師より手厚く指示を受け、24時間体制の支援で、家族からも安心の声が聞かれる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤での看護師はいないが、併設しているデイサービスの看護師に応援を要請することができる。かかりつけ医は24時間対応していただいている。看護師もかかりつけ医の指示で施設にきていただける		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時から、家族様・病院ケースワーカー担当との情報交換に努め、本人・家族様の意向に添えるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には重度化した場合の説明をし、看取りの説明も同時にさせていただき、体調変化で早めに看取り希望・延命希望かを伺い、かかりつけ医・家族・管理者・職員で連携し方針を共有している	開設以来、今日迄全職員が看取り現場の経験を積んできている。利用者と家族が安心出来るよう、先ず職員が万全な体制と手順を明確にして臨んでいる。協力医とも密に連携が取れる体制の中で、勤務経験が長い職員にも恵まれた環境下で、現在1名の利用者の看取りを支えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AED・心肺蘇生の講習は他の部署であり参加してる。消防学校での1日講習には参加している。応急処理はかかりつけ医・経験豊富な職員から学ぶ機会がある		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は行っている。近隣の職員は駆けつける体制もあり、日中は近くの親会社に応援依頼できる体制がある。避難用滑り台も定期的に職員が滑り不具合がないか確認している	年2回火災通報避難訓練と年1回防災避難訓練を実施している。近隣の職員の駆け付けや、近くの親会社の日中応援体制が有り、緊急車両は7分で到着の検証もされている。身近な怪我等の正しい応急処置を学びたい職員の希望があり、今後の課題として取り組みを予定している。敷地内の2棟の倉庫には、備蓄品が整っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた言葉の使い分けを心掛けているが、訴えが一日続く方に雑な返答をする時があるその時はその都度、話し合いをしてもう一度考え心ある対応をしていくようにしている	利用者の名前または苗字で〇〇さんと呼んでいる。トイレの声掛けには、機嫌を損ねない様に個々に合わせて対応している。男性利用者が多数居る中では、気軽な会話も不適切であったり、気遣いも必要であり、職員は言葉遣いに気配りしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来る方には働きかけており、本人の日頃の思いなど会話にて聞き出している。おやつなどご自分の好きな物を選んだり、外食の回転ずしでは好きな物を選び食べていただいている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日のレクリエーションは基本参加自由で、自室でTV見ながら過ごされたり、お庭を見にいかれたり、あみものされたりしている。食事・入浴時間も利用者様の体調や希望に安全が保てる範囲内で対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分好みの服を選び着ている利用者様もいる。くしや歯ブラシ、保湿ジェルなど本人希望の物を使っている。自己決定ができない方は、よく観察し家族様協力のうえその方にあつた物を使ってもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	大根おろし・もやし根切り・お茶詰め等食事準備や、食後の食器・お盆拭き・おしぼり巻き等も一緒にしていただいている	朝食と夕飯は職員が調理し、昼食は業者から調理された物が届き御飯は職員が炊いている。食材は週3回届けられ、可能な下準備は利用者も一緒に行なっている。利用者の気分による延食や部屋での食事にも対応している。誕生日会にはロールケーキに職員がデコレーションして、楽しさを盛り上げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好き嫌いを把握し、味付け・材料の変更、刻み食、糖尿病食(煮物砂糖なし)を作り提供している。外食ができないので地域のお寿司屋の出前や、施設内イベントで普段食べない物を楽しんで食べていただいている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの介助、入れ歯の洗浄・消毒をさせていただいている。入れ歯治療、口腔ケアは回生歯科に往診治療もさせていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要のない方にオムツやパット使用などはしておらず、失敗はあるが少ない方には布パンツを使用していただいている。個別に排尿時間を管理し声掛け・誘導している	病院から退院した利用者は紙パンツが多いが、職員の根気強い排泄支援により、布パンツで自立となった成功事例が多々ある。職員は「洗濯したら済むから」と布パンツ使用見守りで、夜間も確認を継続支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄確認をし、主治医の指示に従い、その方に合った薬を処方してもらい、食事量・水分量も検討・見直ししながら便秘予防に取り組んでいる。運動可能な方には積極的に運動もしていただいている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に添う事は安全面から難しいが、時間に追われることなく、出来る限り、ゆっくりと入浴していただいている。安全の為2人介助で入浴していただいている	基本は週2～3回午前中の中の入浴である。併設デイサービスの機械浴を恐がる方には、シャワー浴に足浴を加え、本人の意向を優先している。ピンクや紫色の入浴剤は女性利用者に人気が高く好評である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり就寝時間も違い、昼寝される方、されない方がみえる。それぞれの生活習慣やご本人の希望に添って支援をしている。毎日、パジャマを洗濯し気持ちよく安眠出来るよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月2回の往診後の服薬変更等の結果を申し送りノートに記入し必ず職員全員把握している。症状の変化を確認しながら、主治医と連携し、薬剤師が薬を届けてくれ、説明をしてくれている。主治医・薬剤師との連携はとれている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションに力を入れ、皆様が出て来て、楽しんでいただく内容を考え楽しんでいただいている。定期的にレクの見直しをして工夫している。月1回の行事は職員が考え楽しんでいただいている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの支援は困難ではあるものの、歩行が安全な方は、庭を散歩するなど気分転換をしている。コロナ禍で外出支援は難しいが、少し落ちつた頃には近所の公園に花見・外食に行ったりしている	3人の仲良い利用者は、ゴミ出しが毎朝の日課である。緑の芝生に囲まれた広大な庭には日本庭園と東屋があり、健脚な利用者は青空の下で日々散歩を自由に楽しんでいる。毎年春になると燕が到来し、巣立ちする迄を楽しみにして、1・2階の利用者が玄関迄見に来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は困難の為、施設管理をさせていただいている。本人の希望でお小遣いで購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話の希望があれば、支援している。知人からのお手紙はお返事も書いていただけるよう支援し、返事が書けない場合は管理者が代わりに書き返事を出している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	その日の職員が安全・衛生面を考え、毎日、各所丁寧に掃除し清潔が保たれている。居室温度などは個々変えている。共同スペースには思い出の写真・季節感飾り、窓から見える山の景色で季節を感じられる	建物を遮る物が殆ど無く、1・2階共に外の見晴らしは良く、陽当たりも良く開放的なリビング兼食堂である。利用者製作の大きな貼り絵や作品が掲示され、華やかな雰囲気である。リビング内は利用者が安全に行動が出来、また介助する場合にも安全な動きが取れる広さの共有スペースである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースにはソファがあり、好きな時、好きな場所に座られ、1人になりたい時には居室にいかれる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には馴染みの物をお持ちいただくようお願いしている。使い慣れたイス・机・テレビや家族写真などそれぞれに快適に過ごせる居室になっている	居室内は天井までの高さのクローゼットと、洗面台付きである。使い慣れた馴染み深い家具や好みの調度品に囲まれて、その人らしい大切な生活の場が整った居室環境である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべてバリアフリーで広いフロアー、廊下、手すりの設置もあり、出来るかぎり自力での移動・排泄の支援ができています		